

背景

中心市街地・地域拠点・小さな拠点をそれぞれコンパクトに形成して地域公共交通等で結ぶ「**多極ネットワーク型まちづくり**」を推進し、次世代に引き継げる持続可能な都市構造を構築していく必要がある

ビジョン策定の目的

市民・事業者・行政が「**ありたいまちの将来の姿**」について**共通認識**を持ち、都市経営の課題達成に連携して取り組むため

中心市街地の重要性と活性化の意義

- 経済・サービスを生み出す都市部と、農林業・水産業の基盤ともなっている郊外部は相互に支えあっている関係にあり両立が必須
- 歴史的経緯からも中心市街地は広大な市域の中枢をなすエリアであり、人口密度を高めて公共・民間それぞれの機能を維持・拡充していくことが重要

市民や事業者の声をベースに設定

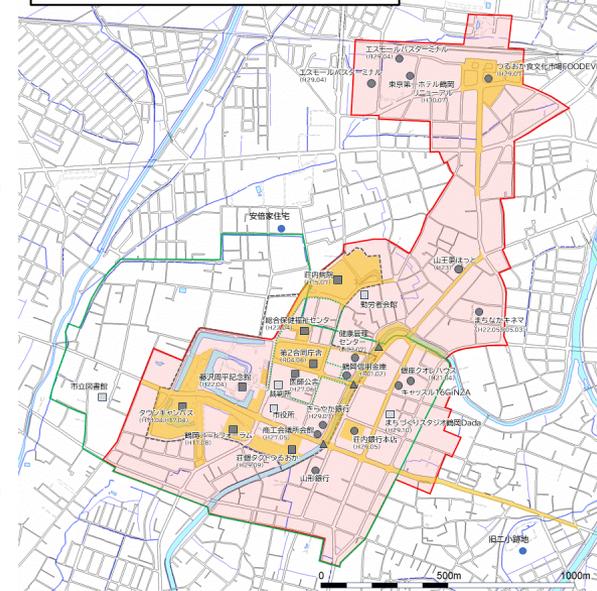
市民ワークショップ

民間事業者ヒアリング

アンケート調査

概ね**15年後**のありたいまちの将来の姿を描く

中心市街地の区域 (約150ha)



第3期中心市街地活性化基本計画の策定

- ビジョンに基づき、令和7年度から令和11年度の5年間で優先的に取り組むべきハード・ソフト事業の内容と実施主体、成果指標と行動目標等を設定する第Ⅲ期中心市街地活性化基本計画を策定 (令和6年度策定予定)
- 併せて、ビジョンで設定した「ありたいまちの将来の姿」について、市民・事業者・行政の共通認識の醸成に向けた周知促進を展開

ありたいまちの将来の姿

まちづくりの方針

想定する取組例

| | ①賑わい | ②居場所 | ③観光 | ④居住 | ⑤移動 |
|--|---|--|--|---|---|
| | 食文化創造都市の利点を活かしつつ、魅力ある店舗が集まる空間で、賑わいを創り出すことができるまち | 心地よい「居場所」があり、市民の学び・探求・創造性と交流を育むことができるまち | 酒井家庄内入部400年の歴史文化からなる地域資源を磨き上げて「まち歩き」を楽しむことができるまち | 子どもまんなかを支え、ライフステージに応じて、安心して快適に暮らしていることができるまち | 中心市街地の魅力に、誰もが、気軽に、移動・到達できるまち |
| | まちなかに、多彩な催しが行われ、「人中心」の賑わいと魅力のある通り・広場・店舗を生み出します。 | まちなかに、勉強、習い事、趣味などの多様な目的で、気軽に滞在できる居心地の良い空間を生み出します。 | まちなかに、地域資源を活用して歴史文化に触れられる「まち歩き」が楽しめる観光エリアを生み出します。 | まちなかに、「住まう場所」として選ばれる、買い物・医療・福祉などの利便性が高い多様な居住空間を生み出します。 | まちなかに、安全で快適な歩行者・自転車空間や、便利で安心な公共交通により、市民のお出かけを支えるアクセス環境を生み出します。 |
| | <ul style="list-style-type: none"> ➢ 人が集い、滞在する魅力的な歩行者空間の整備 ➢ 多様な店舗の新規出店や事業承継、起業・創業のチャレンジへの支援 ➢ 地域の価値を高め、民間投資を呼び込む官民連携のエリアマネジメント組織の設立 | <ul style="list-style-type: none"> ➢ 新図書館の整備など、人がつながる場となる施設の整備 ➢ 高校生等のアイデアによる居場所づくりの支援 | <ul style="list-style-type: none"> ➢ 鶴岡公園周辺の観光資源と商店街との回遊性を高める歩行者空間の整備 ➢ 外国人等旅行者の受け入れ促進に向けた環境整備 ➢ 観光施設・個店への支援制度の創設 | <ul style="list-style-type: none"> ➢ 新築戸建てを促す宅地供給の仕組の構築 ➢ 賃貸・分譲・戸建てなどの多様な住居の選択肢を提供するための高度地区規制の検証と事前明示性強化 ➢ 狭あい道路解消を図る小規模区画再編等の推進 | <ul style="list-style-type: none"> ➢ 市内循環バスの利用促進 ➢ 徒歩や自転車での移動に優しい歩車分離の徹底やバス待合所の高質化 ➢ 交通結節点となる駐車場の適地選定・集約整備 |

「ありたいまちの将来の姿」(案)の構成要素

| ありたいまちの将来の姿 | ①賑わい | ②居場所 | ③観光 | ④居住 | ⑤移動 |
|----------------------------------|---|---|---|---|---|
| 市民ワークショップ | <p>食文化創造都市の利点を活かしつつ、魅力ある店舗が集まる空間で、賑わいを創り出すことができるまち</p> | <p>心地よい「居場所」があり、市民の学び・探求・創造性と交流を育むことができるまち</p> | <p>酒井家庄内入部400年の歴史文化からなる地域資源を磨き上げて「まち歩き」を楽しむことができるまち</p> | <p>こどもまんなかを支え、ライフステージに応じて、安心して快適に暮らし続けることができるまち</p> | <p>中心市街地の魅力に、誰もが、気軽に、移動・到達できるまち</p> |
| 民間事業者ヒアリング | <p>▼健康づくり、娯楽、スポーツアクティビティなどを気軽に楽しめる多様な施設や機会の提供が求められており、特に高校生や子ども向けの遊び場や施設が必要 ▼日中も夜間も人々の往来にあふれる、多機能で魅力的な人中心の賑やかなストリート空間が必要 ▼多種多様なイベントを楽しむことができ、地域の幅広い交流を生み出す場所が必要</p> | <p>▼勉強、習い事、趣味などに没頭できる場所の提供が生まれ、カフェや静かな勉強スペース、子ども連れでも入りやすい「居場所」が希望</p> | <p>▼地域資源の活用が求められ、歴史や景観を観光資源として「まち歩き」に活かすためのアイデアが提案</p> | <p>▼居住環境の向上が重要であり、雪対策をはじめ、空き家・空き地の適正管理、子ども連れ向けの環境整備などが提案</p> | <p>▼誰もが、いつでも、気軽に、行きたい場所に行くことができる、アクセスの向上が必要</p> |
| ◎都市計画審議会 | <p>●中心市街地ですたいことは、ゆっくり食事、買い物、散歩など ●多機能なストリーートの再興 ●中高生の利用場所は、カフェ・ファミレス、駅待合スペース、FOODEVERなど ▲エリア外の人にも利益を享受できる</p> | <p>●中心市街地であればよい空間場所は、オープンカフェ、広場、文化・娯楽施設、子どもの遊び場など ●中高生の過ごし方は、友達とのおしゃべり、勉強、スマホやPCの利用、電車やバスの待ち時間調整など ◎人材育成を含めて高校生主体の取組のサポート</p> | <p>◎城下のまちらしさ、鶴岡らしさの模索</p> | <p>●中心市街地に必要なことは、日常生活の買い物のしやすさ、商業施設や飲食店の充実、美しい街並みや景観、病院や福祉施設など ◎空地の有効活用 ◎まちなかの魅力向上とコンパクトシティづくり</p> | <p>●公共交通の利便性向上 ▲駐車場や公共交通のあり方 ▲観光分野を視野に入れた公共交通</p> |
| ★第一回策定委員会 市議会特別委員会 商工会議所提言 | <p>★高校生がワクワクするような機能が必要 ★元気な個店はまちに行く目的となりうる ★若者が開業しやすい支援 ★商店街や個店の特色を出していくことが重要 ★お金が循環していく視点が重要 ■トータルデザイン作成による無秩序な開発抑制と活性化事業のまとめ ■リノベーションを活用した住民主体のまちづくり、推奨区域の設定 ■中心商店街への食文化拠点施設の設置 ◆歩行者空間整備・ネットワーク化(三日町口通りほか) ◆中心部一方通行解除後の銀座通りの活用検討・整備</p> | <p>★図書館を中心市街地に収めることで様々な問題を解決 ◆マグネット効果が期待できる公共施設の中心市街地への立地(移転候補：図書館、中央公民館、羽田庄内国際村)</p> | <p>★城下町として歴史を活かしたまちづくりが必要 ★ターゲットはまち歩き ★観光の隙間時間の使い方のイメージが湧きにくい ★足を踏み入れづらいイメージがある ★コトを売る、ここにしかないコンテンツを作り出す仕組み ★観光施設を見た後ゆっくり休める場所を求めている ★鶴岡に今ある資源、鶴岡らしさを活用 ■内川沿いの再構築による人の流れの創出と他市に誇れる景観保全 ◆銀座・南銀座での歴史的資源を活かした施設整備(鶴岡ホテル等) ◆エリア内の誘導サインのブラッシュアップ</p> | <p>★住みやすさを重視 ★豪雨災害等への備えとして内川・赤川の整備 ★このまちにいたらこういう暮らしができるというライフスタイルを見せていく ■優良住宅整備、税制等優遇措置による居住誘導 ■ヘルスケア拠点整備 ■高度地区等規制の検証・事前明示性 ◆戸建て住宅用地供給スキーム ◆エリア内の無電柱化(線から面への展開) ◆国の支援整備を活用した民間事業者への財政支援</p> | <p>★バスをどのように利用していくか ★インバウンド観光客は公共交通に依存する ■子どもから高齢者まで誰もが安心して歩いて暮らせるための整備 ■無電柱化、駐車場整備、消雪対策強化 ◆外郭環状道路から中心市街地区へのアクセス道路の整備(都市計画道路：道形黄金線、羽根橋加茂線) ◆IoTによるエリア内の官民の駐車場のネットワーク化による利用効率化・有効活用 ◆公共交通(バス)の利用促進(ハブ・待合空間の整備) ◆レンタサイクルの拡充整備</p> |

「まちづくりの方針」(案)の設定

令和5年12月19日 鶴岡市・鶴岡商工会議所

| | | | | | |
|--------------------|--|--|--|--|---|
| <p>まちづくりの方針</p> | <p>まちなかに、多彩な催しが行われ、“人中心”の賑わいと魅力のある通り・広場・店舗を生み出します。</p> | <p>まちなかに、勉強、習い事、趣味などの多様な目的で、気軽に滞在できる居心地の良い空間を生み出します。</p> | <p>まちなかに、地域資源を活用して歴史文化に触れられる「まち歩き」が楽しめる観光エリアを生み出します。</p> | <p>まちなかに、「住まう場所」として選ばれる、買い物・医療・福祉などの利便性が高い多様な居住空間を生み出します。</p> | <p>まちなかに、安全で快適な歩行者・自転車空間や、便利で安心な公共交通により、市民のお出かけを支えるアクセス環境を生み出します。</p> |
| <p>現状把握</p> | <ul style="list-style-type: none"> 施設利用状況、歩行者・自転車通行量、市内商店街組合員数及び店舗数、小売売上高のいずれも減少傾向にある。 イベント時は賑わうが日常はシャッター街となっている。 | <ul style="list-style-type: none"> 勉強、習い事、趣味などに没頭できるほか、子ども連れも利用しやすい「居場所」へのニーズが高い。 立地やサービス上の理由から図書館に対する改善ニーズも高い。 | <ul style="list-style-type: none"> 鶴岡公園周辺の観光資源と商店街との回遊性が弱く観光消費につながっていない。 老朽化による未利用の歴史的建造物の解体など、地域資源喪失も懸念される。 | <ul style="list-style-type: none"> 低未利用の空き地が約15%存在しており、外部不経済を生み出す不良空き家も多い。 狭隘な道路が多く、雪の捨て場がないなどの生活に不便がある。 | <ul style="list-style-type: none"> 市内循環バス利用者は増加しているものの、全市の交通分担率では、自家用車の依存度は高まっており、地域公共交通・徒歩・自転車の割合が低下している。 |
| <p>ありたいまちの将来の姿</p> | <p>①賑わい</p> <p>食文化創造都市の利点を活かしつつ、魅力ある店舗が集まる空間で、賑わいを創り出すことができるまち</p> | <p>②居場所</p> <p>心地よい「居場所」があり、市民の学び・探求・創造性と交流を育むことができるまち</p> | <p>③観光</p> <p>酒井家庄内入部400年の歴史文化からなる地域資源を磨き上げて「まち歩き」を楽しむことができるまち</p> | <p>④居住</p> <p>こどもまんなかを支え、ライフステージに応じて、安心して快適に暮らし続けることができるまち</p> | <p>⑤移動</p> <p>中心市街地の魅力に、誰もが、気軽に、移動・到達できるまち</p> |
| <p>先進都市等の参考事例</p> |  <p>長野日報HP引用 長野県諏訪市「上諏訪駅周辺まちなか未来ビジョン」に基づく社会実験</p>  <p>銀座通り夏まつり (Dada前の様子)</p> |  <p>石川県立図書館HP引用</p>  <p>「駅前地区将来ビジョン」に基づく社会実験 (高校生の居場所づくり)</p> |  <p>岩手県観光ポータルサイト引用 (公益財団法人 岩手県観光協会)</p> |  <p>国土交通省HP引用 令和6年度都市局関係予算概算要求概要</p>  <p>ALSOK・HP引用</p> |  <p>庄内交通株式会社HP引用 市内循環バス路線図</p>  <p>ほこみち研究会WEBサイト引用 (国土交通省)</p> |

フ
レ
ー
ズ
キ
ャ
ッ
チ

調整中（第3回委員会でお示しします）

要
件

伝えたい相手 : 市民（特に、子どもから高校生世代）、事業者

抱いてほしいイメージ : 中心市街地での明るい未来
中心市街地への肯定感（良いところだ、魅力がある、おすすめしたい）
自分がまちに関わっていると感じる自負と誇り（シビックプライド）
中心市街地でのビジネスチャンス・投資意欲

内容 : 「ありたいまちの将来の姿」と連動していること
鶴岡市（の中心市街地）を指していると気づく・連想しやすいこと

文字数 : 15字程度

あ
り
た
い
ま
ち
の
姿
の
将
来

①賑わい

②居場所

③観光

④居住

⑤移動

食文化創造都市の利点を活かしつつ、魅力ある店舗が集まる空間で、賑わいを創り出すことができるまち

心地よい「居場所」があり、市民の学び・探求・創造性と交流を育むことができるまち

酒井家庄内入部400年の歴史文化からなる地域資源を磨き上げて「まち歩き」を楽しむことができるまち

こどもまんなかを支え、ライフステージに応じて、安心して快適に暮らし続けることができるまち

中心市街地の魅力に、誰もが、気軽に、移動・到達できるまち

事
例

第2次鶴岡市総合計画 : 毎日、おいしい。ここで、暮らしたい。
都市計画マスタープラン : 先端研究産業や中核産業で新しいまちを磨き 住環境の循環によりまちを再編する
コンパクトシティ鶴岡

鶴岡文化学術交流
シビックコア地区整備計画 : 城下町鶴岡の中心を維持し、人をつくり、人がたくさんいるシビックコア
第2期中心市街地活性化基本計画 : 歴史と文化、そして食で彩る城下町都市つるおか
住み、働き、活動する場としての中心市街地再生
第1期中心市街地活性化基本計画 : 住み、暮らし、活動する場としての中心市街地

中心市街地での取組

- ・景観計画策定
- ・第1期中心市街地活性化基本計画策定 (平成20年7月から平成25年3月)
- ・市総合保健福祉センター (にこ・ふる) 整備事業
- ・山王商店街みち空間再生事業 (平成19~23年)
- ・旧荘内病院周辺の市道整備 (平成20~21年)
- ・マリカ東館産業振興センター施設整備事業 (平成19~20年)
- ・藤沢周平記念館整備事業
- ・銀座クオレハウス整備事業 (民間事業)

(出典：市広報、第1期中心市街地活性化基本計画)

2008年 《平成20年》 1年を振り返る

市内での主な出来事など
鶴岡の2008年を振り返ってみましょう



▶クラゲ展示種類で世界一を誇り、評価も高い加茂水族館。子供のクラゲ学習会の取り組みも活発です。



▶黒川龍がフランス・パリで開催された「創造の芸術祭」に招かれ公演を行い、絶賛されました。
▶大山上池・下池が県内では初めてラムサール条約の登録地となりました。一層の湿地の保全、交流・学習の促進が期待されます。

1月 January

- 7日 鼠ヶ関小学校改築工事に着手
- 25日 一般県道鶴岡村上線「東橋」供用開始

2月 February

- 15日 鶴岡繊維工業協同組合の「鶴岡シルク」を活用した新素材開発・高付加価値型製品開発に関する事業計画が、国による地域産業資源活用事業計画に認定
- 29日 県の「やまがたの郷田20選」に本市鶴引地域の標代、朝日地域の大網、温海地域の暮坪・越沢の4か所が認定

3月 March

- 12日~14日 黒川龍パブリック
- 26日 藤沢周平記念館 (仮称) 新築工事に着手

4月 April

- 1日 市の消防団組織を再編し、9方面隊・40分団からなる「鶴岡市消防団」発足
藤島地域と羽黒地域で下水道整備事業が完了し、地域全域で下水道施設の利用が可能になる
羽黒庁舎に車椅子対応エレベーター等を設置しバリアフリー化
鶴引地域で放送していたケーブルテレビジョンのサービスエリアを朝日地域に拡張
- 8日 鶴岡市有機農業推進協議会が、国の地域有機農業推進事業 (有機農業モデルタウン) の1つに認定



5月 May

- 1日 「鶴岡市景観計画」策定
図書館本館・分館で統一した新しい図書館システムを導入
- 14日 「オキクラゲ、その他クラゲの累代繁殖」の業績が評価され、加茂水族館が、日本動物園水族館協会から贈られる最高の賞「古賀賞」を受賞

6月 June

- 1日 市役所の事務事業における温室効果ガス削減に向けた「地球温暖化対策実行計画 (エコオフィス推進計画)」の取り組みがスタート
- 14日~15日 温帯浜海岸や羽黒山を会場に国際ノルディックウォーク in 湯野浜第10回記念大会が開催

7月 July

- 9日 「鶴岡市中心市街地活性化基本計画」が国から認定
- 10日 市総合保健福祉センター (仮称) 新築工事に着手
- 11日 「つるおが森のキャンパス元気プロジェクト」が国の「地方の元気再生事業」に採択

8月 August

- 5日 市内の認定農業者組織が統合し、県内最大規模の「鶴岡市認定農業者会議」が設立
- 11日 市消防団協力事業所表示制度の第1弾として、市内6事業所に表示証を交付
- 21日 本市を初の全国大会開催地とした全国自然敬愛サミット2008が開催
- 28日 藤島こりす保育園が青少年赤十字に加盟し、同園で登録式が開催

9月 September

- 1日 地域別だった水道料金を統一する「鶴岡市給水条例」の改正施行
市と市内の6事業者・4市民団体の間における「鶴岡市におけるレジ袋削減運動の推進に関する協定」に基づいて、市内6事業者の計37店舗でレジ袋無料配布取りやめがスタート
- 20日~21日 併入・高浜彦子の栄山をきっかけに受け継がれてきた「奥の細道」羽黒山全国俳句大会が第50回の節目を迎える
- 28日 10回記念となる環境フェアつるおが2008を開催
- 30日 羽黒テニスコート 照明塔改修工事完了

10月 October

- 1日 市制施行記念式典を挙行
朝陽第一小学校改築工事に着手
藤島東栄地区テマンドタクシー「ふれあい号」運行開始
- 2日 鶴岡市総合計画審議会から市へ鶴岡市総合計画の審中
鶴岡西部児童館新築工事に着手
- 9日 「つるおが森のキャンパス元気プロジェクト」による「森の産直カー」あさひ号・あつみ号運行開始
- 18日 友好都市の鹿児島県曽於市から池田市長などが来鶴し、戊辰の役140周年記念事業が開催
- 30日 大山上池・下池が「ラムサール条約」の登録地となる

11月 November

- 6日 柳引総合運動公園の北隣へのグラウンドゴルフ場整備工事に着手
- 10日 「鶴岡市と山形大学農学部との連携に関する協定」締結
- 14日 平成8年度から実施していた「県営鶴の里ため池等整備事業」が完了
- 16日 焼畑サミット in 鶴岡が開催
- 30日 まちづくり活動支援事業の補助を受け「10年後の出羽三山を考える〜よみがえる山の思想をめざして〜」と題したシンポジウムを開催

12月 December

- 14日 地球温暖化防止シンポジウム in 鶴岡を開催
- 15日 国による「地産地消給食等メニューコンテスト」で、市学校給食センターの「オール鶴岡産給食」が東北地方で唯一入賞し、農林水産省生産局長賞を受賞

